福島県における一般検査部門フォトサーベイについて

過去5年間の傾向

◎菱川 恭子[1)]、橋本 悟[2)]、佐藤 修[3)]、吉田 雅子[4)]、相田 惠美子[5)]
医療法人 養生会 かしま病院[1)]、いわき市医療センター[2)]、一般財団法人 竹田健康財団 竹田綜合病院[3)]、一般財団法人 太田綜合病院附属太田西ノ内病院[4)]、一般財団法人 大原記念財団 大原綜合病院[5)]

【はじめに】福島県臨床検査技師会では臨床検査精度管理調査において一般検査分門ではフォトサーベイを実施している。過去5年間に実施した調査結果から福島県の傾向と課題を検討したので報告する。

【方法】対象はH26年度からH30年度において一般検査部門フォトサーベイに5年間で出題した尿沈渣合計48設問。「尿沈渣検査法2010」に従って回答を求めた。出題内容を、非上皮細胞類、上皮細胞類、異型細胞類、円柱類、結晶類、微生物・寄生虫類、その他の成分に分類し正解率の検討を行った。参加施設は各年50～53施設あった。

【結果】設問48問の内訳は非上皮細胞類8問、上皮細胞類15問、異型細胞類6問、円柱類7問、結晶類3問、微生物・寄生虫類2問、その他4問。正解率が80%を下回ったのは上皮細胞類2問（尿路上皮細胞1問、円形・類円形型尿細管上皮細胞1問）異型細胞類3問（尿路上皮癌細胞疑い2問、扁平上皮癌細胞疑い1問）円柱類1問（フィブリン円柱）その他1問（性腺分泌物）であった。正解が5割に満たない施設は3施設（H26年度1施設、H28年度2施設）あった。

【考察】非細胞類、結晶類、微生物・寄生虫類は正解率が80.8～100%と高く、赤血球形態鑑別、非糸球体型赤血球と真菌の鑑別、細菌（変形細菌）、臨床的に重要な結晶などは理解できていると思われた。上皮細胞類では尿路上皮細胞と円柱上皮細胞の鑑別が69.2%、円形・類円型尿細管上皮と扁平上皮細胞の鑑別が72.0%、異型細胞類は52.9～79.2%、円柱類ではフィブリン円柱が70.6%となり、これらは遭遇頻度の低い成分であるため正解率が低い傾向であった。正解が5割を下回った3施設の複数年にわたる重複はなかった。今後は回答する成分の鑑別理由も調査するなどして誤回答の要因を明確にすることや、研修会への積極的な参加を呼び掛けることが課題である。

【結語】今回の調査結果から、類似している細胞の鑑別、異型細胞類の鑑別、円柱類の鑑別に対し正解率が低い傾向がみられた。今後はこれらを解消するために実技研修を含めた研修会で重点的にとりあげ正確な尿沈渣成分の鑑別につなげていくことが重要と考える。　連絡先 0246-76-0013